

## 要旨例

薔薇に含有される長鎖不飽和脂肪酸の誘導体の合成と神経保護活性

石川一男 (△大・薬)、○富山 二郎 (□大・院医)、福井 三子 (■研・▽▽)

### 【背景・目的】

アルツハイマー病に代表される神経変性疾患は、神経回路網の破綻が原因であり、その原因を取り除く予防的・進行阻止的治療に加えて、破綻した神経回路網の再構築が重要となる。我々は、以前に、イラン産薔薇 *Rosa damascene* の  $\text{CHCl}_3$  抽出物が、神経細胞の萎縮を抑制し、神経軸索の伸展をもたらす事を見い出し、その活性成分として長鎖不飽和脂肪酸 (1) を推定した。今回は、活性成分の同定とより強力な活性化合物を得る目的で長鎖不飽和脂肪酸 (1) 及びその誘導体の合成を検討した。

【方法】市販のジカルボン酸から誘導したアルデヒド体と市販のブロモアルコールから合成した不飽和アルデヒドの Wittig 反応をキー反応として用い、・・・

【結果・考察】得られた化合物について、SD ラットの脳皮質神経細胞の初代培養系に対して  $\text{A}\beta$  (25-35) 処置で引き起こす神経細胞死に対する作用を検討した結果、・・・・。今後は、・・・・

